


ふりがな 氏名	かつやま ともひろ	都道府県	福井県	
	勝山 智央			
所属/肩書	福井県立若狭高等学校／教諭			
私の ESD活動	エネルギーをキーワードにした論文を作成し発信する授業			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私の勤務する福井県立若狭高等学校では、文理探究科1年生に対して、「人文科学・社会科学に関する探究学習」の授業を週2単位で行っている。全国的に原発について議論される今、日本一の原発集中地域に住む本校生徒こそが、原発・エネルギーの未来について議論を行い、自分の考えを持ち、発信しなくてはならない。そこで「2020年までに原子力発電所を全廃するか否か」という共通のテーマで、論文を作成しポスター発表を行った。2学期からは「エネルギー」をキーワードに、環境・地域経済など幅広い分野の中から、自ら課題を見つけ、解決に向かう糸口を自ら考え、論文を作成し発信する活動を行っている。

このような活動を通して、自らが課題を発見し、情報を集め批判的、総合的に分析・整理し、自分の意見を仲間と共有し発信する能力を育成することで、環境や社会上の問題に一人ひとりが注目し、考え、共に解決する自立した市民を育て、持続可能な社会の構築につながると考える。

1学期を終えたある生徒の振り返りには「私が原発のことについて考えたとき一番感じたのは、知識です。(中略)知識がないのに意見を言うのは、無責任だと思いました。(中略)新聞に限らずマスメディア全体を通じて情報を選択したり、二つ以上のものを見比べたり、色々な人の意見を聞いたり、(中略)一つの意見に流されず、自分で考える力がつくと思います。」この生徒Aの振り返りを読むことで、多面的・総合的に課題をとらえ、批判的に思考し判断しようとすることの重要性を理解し、態度も身についたと考えられる。

また本校では、近隣の小中高校や大学・団体を集め、環境・エネルギー・海洋・原発など様々な分野の専門家を集め、パネルディスカッションやポスターセッションなどを行うイベント「環境・エネルギー学会 in OBAMA」を開催したり、「SATOYAMA 国際会議 2013 in ふくい」でポスター発表を行ったりと、環境に関する活動を多く行っている。

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

様々なシンポジウムや研究会などに参加し、多くの繋がりをつくることだと考える。

今回のような会を通して ESD を実践する若者同士の繋がりを作り、情報を交換することによって、今後の活動の幅が広がり、学校での ESD 活動の場合、学校同士や大学・団体との繋がりもできる。学校同士や大学・団体との連携により、生徒の繋がりができることで、共同して課題に取り組んだり、お互いの成果を発表・共有したり、日本の若者が共に社会の課題に取り組む理想的な社会を形成することが出来るのではないかと考える。